

長崎大 教育

赤崎 眞弓

(目的)

教材の構造化の手法を用いた「家庭科教材モジュール」を提案する。教育内容がモジュール化されることによって、内容や技術・技能が構造的に把握でき、授業の指導計画や指導案の作成を容易にする。また、教材の吟味がしやすく、評価の観点も明らかにできる。

今回は小学校被服領域を対象として行った研究をもとに、「家庭科教材モジュール」を提案し、「家庭科教材モジュール」作成の方法について発表する。

(方法)

手法として用いるISM教材構造化法とは、複雑な教育内容を定性的に分析して、体系的に把握し、構造化する方法である。実際に行った手順は、学習指導要領や指導書、教科書から、小学校「家庭科」被服領域における被服製作に関する内容を概念として抽出し、それらを要素とする。その要素間の関係を明かにし、それぞれの要素間の関連づけを行い、コンピュータで処理し、構造化を行う。

(結果)

「家庭科教材モジュール」とは小学校「家庭科」、中学校「技術・家庭科」、高等学校「家庭科」の教育内容を対象としたモジュール化教材であり、構造化された基本的なひとまとまりの教材を「家庭科教材モジュール」とよぶ。

現在までに抽出された要素の数は138個である。構造化を行い、作成したチャートは57枚、「家庭科教材モジュール」の数は6個である。詳細は発表で述べる。